

2007 年度

科目名 映像文化Ⅱ	対象学科・学年 文学部日文2 回生	担当者 羽田 景子
授業テーマ 映画に投影されたアメリカ社会		
授業の概要と目標 映画は個人の芸術的表現、フィクションに留まるものではありません。筋書きや人間像にはその時代特有の価値観や社会意識が反映されています。本講義では映画表現を通して、人種・エスニシティ（民族性）、戦争、外国（日本）に対するアメリカ社会の認識とその変遷について学びます。		
評価方法 試験の成績及び小レポート、授業態度により評価します。授業態度は出欠、講義後に課す感想文によって評価します。		
テキスト 特に定めません。授業時にプリントを配布します。	著者	出版社
参考書 『アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実』 その他、授業時に配布するプリントに記載します。	著者 有賀夏紀・油井大三郎編 著	出版社 有斐閣
授業スケジュール・内容 1. はじめに：講義の概要説明。映画から何が見えるか。アンケート実施。 2. 人種とエスニシティ①：白人共和国の建設。先住民、黒人はいかに扱われたか。 3. 人種とエスニシティ②：人種間の融和を求めて。60年代公民権運動が映画に与えた影響。 4. 人種とエスニシティ③：70年代以降のエスニック・リバイバル。ルーツを求めるホワイト・エスニック。 5. 人種とエスニシティ④：現在を生きるマイノリティーの姿。彼（女）らの直面する社会的問題。 6. 2～5の総括・補足説明。映画表現と多民族統合モデルの変遷。 7. 戦争の記憶 ①：第二次世界大戦＝「よい戦争」？ アメリカにおける核のイメージ。 8. 戦争の記憶 ②：アメリカの「正しさ」への疑問。ベトナム戦争と対テロ戦争。 9. 戦争の記憶 ③：新たな表現への試み。「ヒーロー」のいない戦争を描くことは可能か。 10. 7～9の総括・補足説明：戦争の表現から見えること。 11. 日本への眼差し①：「脅威」としての日本。「ライジング・サン」（真珠湾）と「ライジング・エン」（貿易摩擦）。 12. 日本への眼差し②：オリエンタリズム。「謎」としての日本。 13. 日本への眼差し③：ステレオタイプからの脱却をめざして。 14. 11～13の総括：「日本」イメージの変遷から見えるもの。 15. 試験		